



各 位

平成 24 年 5 月 8 日

会 社 名 富士重工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 吉永 泰之
(コード番号 7270 東証第1部)
問 合 せ 先 総務部長 山藤 和典
(T E L 03 - 3347 - 2005)

(訂正)「平成 24 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

平成 24 年 5 月 8 日 13 時に発表いたしました「平成 24 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容の一部に誤りがありましたので、訂正いたします。訂正箇所は下線にて表示しております。なお、数値データについての訂正はありません。

記

訂正箇所 3 ページ

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

① 当期の経営成績

セグメントの状況

【訂正前】

(航空宇宙事業部門)

防衛省向け製品では、「無人偵察機システム」、多用途ヘリコプター「UH-1J」、「F-2」戦闘機等の売上減により、売上高は前期を下回りました。

一方、民間向け製品では、為替レートが前期に比べ円高に推移しましたが、「ボーイング 777」等の売上増加により売上高は前期を上回りました。

以上の結果、全体の売上高は 803 億円と前期に比べ 26 億円 (3.1%) の減収となり、セグメント利益につきましても、29 億円と前期に比べ 6 億円 (27.7%) の減益となりました。

【訂正後】

(航空宇宙事業部門)

防衛省向け製品では、「無人偵察機システム」、多用途ヘリコプター「UH-1J」、「F-2」戦闘機等の売上減により、売上高は前期を下回りました。

一方、民間向け製品では、為替レートが前期に比べ円高に推移しましたが、「ボーイング 777」等の売上増加により売上高は前期を上回りました。

以上の結果、全体の売上高は 803 億円と前期に比べ 26 億円 (3.1%) の減収となり、セグメント利益につきましては、29 億円と前期に比べ 6 億円 (27.7%) の増益となりました。

以上